

AA日本ニュースレター

私書箱

〒100-91
東京都中央郵便局
私書箱 916



AA 日本ゼネラル・サービス・ミーティング・文書委員会
TEL03-590-5377 〒171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橘ビル 9F



No. 22

90年秋季ラウンドアップ
に参加して

アカベ身体障害者作業センター
更生課長 伊東 昌子



今、私は秩父ラウンドアップが醸し出す雰囲気の中で味わった静かな感動と、そこで出会ったAAメンバーとの心暖まる交流を思い起こしながらペンを執っています。『こんなに善良で、親和的な人々の仲間に入れてもらえるなら、アルコール依存症者であることも悪くないかも知れない』これが初めてラウンドアップに参加して私が抱いた素直な感想です。もっとも、私がアルコール依存症者であったとしたら、AAに繋がる幸運に浴していたかどうか、甚だ心もとないことではあります。

ある専門機関のケースワーカーから「10万円払っても参加する価値はありますよ」と薦められて、今回のラウンドアップ不承不承参加した私でした。

しかし実際に参加して、その言葉が決して誇張ではなかったことを実感させられました。何故なら『10万円払ってもまた参加したい』という強い思いをお土産に貰って、私はラウンドアップから帰って来たのですから。

刹那的に、無目的に生きている人々の余りにも多い現代社会にあって、真面目に、ひたむきにそして真剣に生きている彼らの姿勢に深い感銘を受けました。人間性の不思議さに、また人間であることのいとおしさに改めて胸打たれました。心のもつ絶大な復元力に感嘆しました。そして私自身生きる勇気と心の平和を存分に分けていただきました。

近年、アルコールが原因で障害を被った人達の施設利用が増加しています。私が勤務する身体障害者授産施設にも、アルコール依存症、若しくはその疑いのある障害者が高い割合で入所しています。

約2年前までは、彼らが依存症であることを全く知

らず、酔っ払いの面倒を見なければならない我が身の不運を嘆く日々の明け暮れでした。平気で嘘をつき、だらしなく酔い潰れ、喚き散らし、人に絡みくどくどと言いつくをする彼らに、表面上は取り繕いつつも、心底から込み上げて来る嫌悪感をどうすることも出来ませんでした。そんな時期に、離脱症状が出て施設ではどうにもならなくなった一人の片マヒ者をアルコール依存症の専門治療病院に入院させなくてはならなくなり、そこで初めてアルコール依存症について知らされました。しかしアルコール依存症を心臓病や癌と同じ意味における『病気』と認めることは大変難しいことです。病院で行われる家族教室やグループ・ミーティング、AAのオープンミーティングに参加し、嫌悪感を催させる彼らの飲酒行動が病気故のものであることを理解出来たとき、彼らに対しての私の感情は全く別なものに入れ替えられてしまいました。まさに『目から鱗が落ちる』思いでした。

ラウンドアップ二日目のステップ・ミーティングに参加して、彼らの体験談を聞きながら妙に共感している自分に、『もしかしたら私自身アルコール依存症者の一人ではなからうか』疑ったほどでした。何故これ程までに共感を覚えるのか、答えは私自身にも質こそ違い、生きることに底をつき、自分を持って余っていた過去があったからではなからうかと思えます。『底つき体験』はアルコール依存症者のお家芸ではなく、人生の意味を理解し、真剣に生きようとする人間ならば、多かれ少なかれ誰もがもつ体験ではないでしょうか。だからこそ、ミーティングで語られる彼らの『体験談』は依存症者のみにとどまらず、底に集う他の人達の共感をも呼ぶのだと思えます。アルコール依存症者が増えること決して決して望むものではありませんが、依存症者が一人でも多くAAのメンバーに加わっていくことを心から願っています。

末筆になりましたが、私共の施設より参加した7人の障害者に特別の配慮を下された実行委員の方々に衷心よりお礼申し上げます。

地域からの近況報告

北海道地域

90AA北海道 ラウンドアップ in FURANO



北海道のラウンドアップも3回目になります。広い地域ですので開催地に苦慮いたしました。"北海道のへそ"の地、富良野市で開催することになりました。ワールドカップスキーの開催地として、又映画「北の国から」のロケ地として有名になった土地です。広さゆえにめったに顔を合わすことの出来ない多くの仲間達が、このときとばかりに集います。さらに全国の仲間に参加いただき、新しい出会い、再会を喜び、明日への生きる力としたいと思っております。屋外での成吉思汗(ジンギスカン)料理に舌鼓を打ち、見上げる滑降コースをハイキングし共に北海道の初秋を満喫しましょう。

詳細はおってお知らせしますが、日時は9月15日、16日、17日、開催場所は富良野市北の峰、「北誠荘」です。

関西地域

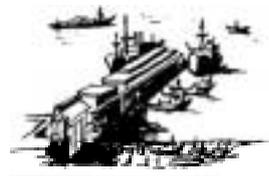
トライアングル・ グループ便り

日本AA15周年に合わせて新しいグループが誕生したことをお知らせします。「AAのイベントがある度に我々の原理が肥っていく」そんな気がしてなりません。グループの名付け親は市の施設の職員の方で、15周年に参加して下さり、黄金のシンボルマークを指さして「グループ名はあれにしたら」と言うことになりましたが、我々には少々名前負けしそうな気がします。今まででも一人のアルコール中毒者が巣立って行くと、周りが皆喜んでくれる。特にその仲間と関わりを持った人達はそう。大阪の労働者の街にも同じことが繰り返される。この病気は周囲の人を巻き込むが伝染はしない、しかし病気からの回復は伝染すると誰かに聞いたが、その通りだと又しても実感している。現在ミーティング場は3カ所、そのうちの2カ所では部屋に溢れるほどの仲間が集まって来る。朝、その日の仕事のために西成労働センターの近くを通ると、時々仲間に出会う。お互いの顔や体が「今日も一日ですな」と言っているように感じる。その辺に、飲んで、伸びて、寝転がっていたのに俺達はどうなったのだと笑うことがある。3年前に仲間と「ここにグループが出来るのは、俺達が死んだ後かな」と話したことがあったが、ハイヤー・パワーが多くの人々の愛を使って、我

々のより所になるグループを作って下さった。ミーティング場ではしばらく顔を見ていた仲間が、ある晩「アルコール中毒の何々」と名乗って初めての話をしたとき、私は自分の肉親以上の親密感をその仲間を感じてしまう。

パースディメダルのほとんどが一年未満というのもこのグループの特徴で、又それが魅力にもなっている。ここで一年のメダルを手にした仲間は、どんどん他のグループに移って活動しているものと信じている。信じられるのは我々のプログラムの中にそれが組み込まれているからである。何々会、何々グループ、そんなラインを超えて酒を止めたい願望をもつ人達の集まりの各人が、その人の持っている何物かを差し出しているから、又そんな時にこのグループの特徴が鮮やかに出るし、それは我々の責任と感じている。この思いが有る限りグループは生き生きとしているし、少なくとも寝転んではいけない。

多くの仲間の意見で、2カ所のミーティングの始まりの時間が30分ずれている。理由は仲間の仕事の都合である。それに対してある仲間が「芦屋のアル中も当所のアル中も変わりはないよ」と言ったが、それには皆が頷いていた。我々を支えてくれる多くの関係者、総ての仲間感謝してグループ便りいたします。



九州・沖縄地域

夏こそ九州へ

太陽と緑と人情味に溢れた土地

九州のラウンドアップも今年で第4回になりました。今年は熊本県の南阿蘇で開催することになりました。毎年九州以外からも50名程度の仲間の参加を戴いていますが、今年も十分に楽しんでいただける企画を用意しています。まだ九州を訪れたことのない方は、ぜひこの機会に阿蘇は今でも活動を続ける活火山です。その雄姿をご自分の目で確かめて下さい。

記

日時 平成2年7月21日 - 22日 - 23日
 会場 熊本県南阿蘇国民休暇村
 参加費 3000円
 宿泊 1泊2食 6700円
 2泊4食 13400円
 問合せ先 鹿児島市祇園之州12

(セジュール祇園之州203)

☎0992-48-0057

鹿児島セントラル・オフィス

移転に伴い住所が変わっていますが、郵便物等は旧住所でも届くことになっています。



AA 15周年に参加して (木が震えている)

大宮市心身障害総合センター
健診相談係長 井上 茂

3月の日曜日、ほうれん草を採りに畑に向かった。車を降りると、畑は強い北風の通り道になっていた。娘は北風に抗し、膝小僧を抱え丸く縮こまる仕草をしていた。その回りを2才になった息子が飛び回っている。私は畑から早く引き上げようと親父を促し、子供達と車に戻った。私と二人の子供はしばしの風宿りである。

「パパ、じいちゃん早く来ればいいのにね・・・」

「見てごらんパパ、ほら木が震えているよ、見てごらんよパパ！」

娘の言葉は私の内に新鮮な驚きを蘇らせていた。「木が震えている」なぜかこの言葉に私は嬉しくなっていた。娘の表現に心が微笑んでいた。

若し私一人であったなら「木が揺れている」と、ただ視覚的にでしか見えなかったに違いない。否、視覚に入っても「揺れている木」を意識の一コマに留どめておくことさえなかったかもしれない。しばらく忘れていた感性が娘の言葉に共感し、反応、コミュニケーションしてくれていた。

「木も寒いのかな・・・」

「そうだよパパ、木も寒いんだよ」

閑話休題

起きている現象を同じように経験し、それを素直に受け入れることが共感を生む原動力となっているのかもしれない。ビルとボブの間にも同じようなことが起こっています。ビルとボブの出会いの中で、ボブの状況は医学的に絶望的で破滅が避け得ないという事実を、ビルの Alcoholic としての個人的な経験から知られていることに、ボブは強い衝撃を受けたそうです。

ビルの語る言葉はボブの言葉そのものであったとボブは述懐していますが、Alcoholic にまつわるビルの経験上の話はボブのそれと同じようであり、そこからボブは強い衝撃を受けます。つまり同じような生き方への共感が生まれたわけです。ビルとボブの出会いから既に55年経った今日、12Steps を使って活動している自助グループは数十とも数百とも言われています。何かが原因で自分の健康に、能力に、生き方に重

大な危機感を察し、仲間の力と 12Steps を使って「生き方の方向転換」を図っていく必要性を認知した人が、互いにもう一人の仲間を求めて出会いが続いているのだと思います。

「生き方の方向転換」を迎えるのに、心奥からの自信喪失、絶望感、換言すれば「人間としての危機感」が必要であることはビルとボブの話からも伺えます。

AA でよく聞かれる「どん底」とはこの危機感を指すのでしょうか。しかし一口に「どん底」と言っても、他人から見て危機的状況とは見えなくとも、本人にしてみれば心奥からの自信喪失に、もがき苦しんでいる場合もあるかも知れません。また反対に、他人から見て危機的状況とは見えなくとも本人にしてみれば何等かの理由で危機感を感じ、認知することをその時点では出来ない場合もあるのかも知れません。危機感はそのそれぞれ人によって、その感じ方、認知の仕方に差があるものです。「危機的状況」と「危機感を感じ認知すること」とは同じ問題ではないことを前提に、互いの「どん底」を認め合う必要があります。自身の最奥からの自信喪失、絶望感を正直に語ることにより、同じ Alcoholic としての同類の関係で分かち合いがうまれるのでしょうか。しかし、そこでは「回復への希望・生きる楽しさ」をも分かち合い、回復への可能性を察知することがなければ意味がありません。AA ミーティング、そこは「生きる希望」を分かち合う場でもあるからです。「希望」と「絶望感」と「希望」という一見相反する二つの事実を、メッセージを運ぶ人の正直な姿を提示して行くことが大切だと思います。そういう雰囲気の中で共感が生まれ、コミュニケーションが始まると思うからです。

AA 15周年ではとても暖かいものを感じました。特に Al-Anon の面々の登壇には私の目と耳は奪われ、その語りに、その姿に次第に目頭は熱くなり、それと同時に腹の底から笑いが溢れ出していました。いつの頃からか、見たくても見られなくなっていた情景に一人のソーシャル・ワーカーとして特別の思いを寄せていたのかも知れません。

この15年間、私はAAの周りにただで、人間性の「病的歪み」が健康的に変容していく様を、AA

メンバーを通して見続ける事が出来ました。これは素晴らしい感動との出会いでもありました。AAプログラム・AA 12 Steps は人間性の回復のプログラム、このプログラムの下にさえいれば誰でも健康的に変容していける可能性がある。いつの間にかこの確信が私の

中に根付いていました。今後もラウンドアップやステップセミナー等で Fellow-ship の雰囲気に触れることによって、この確信を感じて行くことを楽しみにしています。



文書委員会からのお願い

第一回日本ゼネラルサービスミーティングで発行することが承認されたにもかかわらず、着手が大幅に遅れていた『個人の物語集』を発行の準備にかかることになりました。経験と希望の分かち合いはミーティング場においてというのが第一ですが、AAのメッセージが届かず苦しみから解放されない仲間のために、また同じ地域、社会環境からでは得られない、多様な仲間の経験を分かち合うために、多くの仲間から投稿をお願いいたします。

文章の内容は勿論『過去どのようであったか、何が起こったか、今どのようであるか』を基本としていただきたく存じます。

募集要項

募集資格 AAメンバー(本人)
原稿量 400字詰原稿用紙20枚程度
原稿締切 9月末日

応募戴いた原稿の著作権はJ S O出版局に移管させていただきます。又、編集場の都合により一部を割愛したり、伝統上の問題から内容に手直しを加えることもあります。又、内容が類似した原稿がある場合には、掲載を辞退願う場合もあると思っておりますが、これらについては総て当方より寄稿者に連絡申し上げ、了承を得ることを原則としております。

出版に際しては執筆者の名前を掲載することは絶対にありませんが、連絡の都合上から原稿には連絡先、又連絡方法を明記するようお願い致します。

第1回城南地区

ヤング・オープン・スピーカーズ・ミーティング のお知らせ

この度(AA城南地区ヤング・クローズド・ミーティング)主催で、上記の催しを行いますのでご案内申し上げます。日時は8月4日、会場は千駄ヶ谷区民会館集会所です。また開催に当たってはAA城南地区委員会の後援を戴くことになっております。

関係者の皆様へ

第3回専門分野からの要望を伺う集い
主催 関東地域評議員会
専門家協力委員会

今回、下記の要領で3回目のこの『集い』を開催することになりました。昨年2度の集いで皆様より提案いただきました問題点について、AAの委員会で話し

合われた結果等を提示しながら、各関係分野の皆様からの率直なご意見、ご要望をお聞かせ戴き今後のAAの活動指針とさせていただければ幸いです。ご多用中とは存じますが多数の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

記

日時 7月14日(土)午後2時~4時30分
会場 東京ユニオン・チャーチ 地階
地下鉄『表参道』A1出口直進徒歩2分
JR『原宿』表参道を青山方面徒歩8分
マツダショールーム隣

お問い合わせJ S O 03-590-5377

特別献金のお願い



各グループ宛に案内をお送りしている、ワールド・サービス・ミーティング評議員派遣の特別献金を紙上を借りて再びお願いします。

日本のAAが、世界のAAの一員として活動し、発展するために皆様一人一人の善意と感謝の献金をお寄せ下さい。

日本ゼネラル・サービス・ミーティング
財務委員会

J S O 便り

新刊案内

大変お待たせ致しました! 四月発行予定で皆様からご予約をいただきながら発行が遅れ、多大なご迷惑をお掛けしましたことを、深くお詫び申し上げます。

『AA成年に達する』

AA小史 3,500円 1990年6月25日発行
AAがどのように始まり、12のステップに表される『回復』の原理、12の伝統に示された、『一体性』の原理、そして世界に広がる『サービス』の原理がどのように導き出されたのか。

AA誕生から20年間の歴史がドラマティックに展開されます。

J S O フォーラム開催のお知らせ

—J S O について何でも話そう—

日時: 1990年7月15日(日) 9:30~15:30
会場: 『飯田橋』セントラルプラザ6階
多くのメンバーの参加をお待ちしています。